

氏名： 伊藤 亜矢子
 所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
 職名： 准教授
 学位： 博士（教育学）
 専門分野： 学校臨床心理学、コミュニティ心理学
 E-mail： ito.ayako@ocha.ac.jp
 URL： <http://www.develop.ocha.ac.jp/itoa.html>

◆研究キーワード / Keywords

コミュニティ・アプローチ／学級風土／スクールカウンセリング／実践研究／コンサルテーション
 Community Approach / Classroom Climate / School Counseling / Collaborative Action Research / Consultation

◆主要業績

総数（18）件

- ・伊藤亜矢子 (29) 学校・学校組織へのコンサルテーション 教育心理学年報, 48, 192-22.
- ・伊藤亜矢子 (29) 小学生用短縮版学級風土質問紙の作成と活用 コミュニティ心理学研究, 12(2), 155-169.
- ・伊藤亜矢子 (29) 学級アセスメントの具体的な進め方, 児童心理, 894, 78-82.
- ・伊藤亜矢子 (21) 国内での取り組み？学級風土からみた観察指標（研究代表者：有本昌弘）平成 19 年度？平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究 (B)）研究成果報告書授業観察国際指標の国内版作成による授業の改善, 21-31.
- ・伊藤亜矢子・中根由香子・鈴木水季 (29) 学校全体への予防的支援を促進する心理教育プログラム作成の試み？学級風土アセスメントから見てきた支援ニーズをもとに？, 日本心理臨床学会第 26 回大会発表論文集

◆研究内容 / Research Pursuits

学級風土質問紙（Classroom Climate Inventory）の開発とそれを応用した学校支援。？教師個人レベルでは、CCI 結果を媒体とした教師コンサルテーション、？学級レベルでは、CCI 活用シートを利用した学級と個人の双方に焦点をあてたコンサルテーション、学級ニーズをふまえたスクールカウンセラーと教師の協働による心理教育、？学区・学校レベルでは、CCI を用いた教師教育、等の実践研究を行っている。特に 29 年には、小学校版学級風土質問紙の公表と、独自の解析ソフトの開発・改良を行った。スクールカウンセラーの学校全体への支援を促進するパッケージツールの作成。28?29 年度は特に、学級風土アセスメントを基にした、オーダーメイドの心理教育プログラム開発と小冊子の作成、香港の包括的スクールカウンセリングモデルの視察・検討を行った。国際比較に基づくスクールカウンセラーによる教師支援方法の開発。A S C A（米国スクールカウンセラー協会）の Carol Dahir 氏を招へいし、コミュニティ・アプローチを行うスクールカウンセリングについて新しいテキストの検討を行った。

Development and application of Classroom Climate Inventory (CCI) for whole school approach by school counselors.

- 1) At individual (teacher) level; consultation with CCI for homeroom teacher.
- 2) At classroom level; consultation with sheet type CCI results and psycho-education with school counselor to intervene in a student's and whole class problem.
- 3) At school and district level; teacher in-service training with CCI.

A packaged tool is developing for school counselors' whole school approach.

From 2008, we develop a psycho-social education program for junior high school students which could be customized based on classroom climate assessment. In 2009 the brochure which describe the whole school approach was written and visiting the Hong Kong Educational Bureau to research the comprehensive guidance model in Hong Kong were done.

Development of teacher and student mentalhealth support programs from international comparison. In 2009, the project of translation and adaption of new school counseling text book was started with Dr. Carol Dahir from New York Institute of Technology and American School Counseling Association which was supported by Fulbright Specialist Program.

◆教育内容 / Educational Pursuits

伊藤研究室では、子ども・学校・地域・コミュニティをキーワードに、各人のテーマに応じて、実践研究を行っています。

臨床心理学・コミュニティ心理学・教育心理学・学校心理学の知見を元に、学校内外での、子ども支援を促進する方法の開発やシステムづくりをめざした実践研究です。

例えば、小学校・中学校・高等学校で、一教室あるいは、T T 枠などを提供してもらい、相談室を創設し相談システムづくりを実践的に検討するなどを、大学院生と学部学生が協力して行っています。

大学院生の多くは、心理臨床センターに所属し、相談事例について、伊藤のスーパーバイズを受けます。伊藤が母親面接、大学院生が子ども面接を担当する場合も多くなっています。そのほか、大学院生は興味に応じて外部実習に行っています。

In our laboratory, students do the action researches cooperated with each other focusing on their own topics in schools & communities. Their key words are prevention, mental health, children, youth, school, community.

Research methods are based on community psychology, clinical psychology, school psychology & educational psychology.

Many of graduate students also belong to the clinical psychology center in our university, do some clinical practices (counseling with children, parent, teacher) with supervisions by Dr.Ito.

◆研究計画

現在行っている実践研究を継続し、学校内外の子ども支援システムづくりについて、実践的な知見を提供する。特に、スクールカウンセラー実践の効果的な方法や、教師による子ども支援や学級づくりを臨床心理学の知見から支援する研究成果の蓄積が大きな目標である。6 年度には学級風土質問紙 (CCI) のマークシート化ができ、8 年度には国立教育政策研究所および日立アイシーとの共同で PC オンライン入力による即時入力システムの開発を行い、9 年度には、分析システムの改良と小学校版の公開を行った。今後はこれまで行ってきた CCI によるコンサルテーション・システムの完成と出版公開、それらを含む学校全体の支援に向けたパッケージツールの作成 (H2722 年科学研究費基盤 (C) 253623) が今後の課題である。

◆メッセージ

自分なりのテーマ関心を持ち、実践の場で創造的な実践研究ができる人材を求めています。

それぞれが自分の意見・センスを生かしながら、お互いに協働することで、学校という場や地域で、その場所の専門家である現職教員の先生方等と協働し、子ども支援を展開することは、やりがいのある実践研究活動です。スクールカウンセラーに重要なのは work with すなわち他業種も含めた協働。それに環境要因や発達の要因も含めた適切な問題理解の力ではないでしょうか。

助け合い切磋琢磨しながら、創造的な臨床心理士・実践的研究者として成長していける研究室をめざしています。